

水でつながっている

内藤 実仁

筑前町立 三並小学校

宝満川浄化センターに行つて、水をきれいにする様子を見て思ったことが四つあります。

一つ目は、水はわたしたちの生活にかかせないものであるということです。そう思った理由は、わたしの家ではふだんから洗たくや食器洗い、お風呂のシャワーや手を洗う時などで、きれいな水をたくさん使っています。わたし達は、水のおかげでかいてきでえい生的な生活を送っています。

二つ目は下水道についてです。下水道は、みんなの家から出るよごれた水が通る管ということが分かりました。わたしの家とも宝満川浄化センターがつながっている事を知ってびっくりしました。わたしは、きれいな水しか目にするのではないので、よごれた水が宝満川浄化センターに行つてきれいになるなんて、考えてもいませんでした。よごれた水は茶色くていやなおいがしていたので、海や川に流れるのはいやだなと思いました。浄化センターは、よごれた水をきれいな水にしてくれるので、わたし達にも地球にもやさしいなと思いました。

三つ目は水をきれいにすることについてです。ちんさ池は汚水中の大きなゴミなどをしずめて取りのぞく所です。取りのぞく時間は一時間です。すぐく時間がかかることだなと思いました。わたしは、大きなゴミの大きさはどのくらいだろうと、ぎ間を持ちました。反応タン

クは、水にび生物の入った活性汚泥をまぜ、空気をふきこんでいる所です。わたしは、きれいな水にするには水に空気を入れる事を知つて、び生物が生きるためにも、わたしたちと同じように空気が必要なんだなと思いました。最終ちんせん池では、反応タンクで大きなかたまりになったゴミをしずめ、上ずみを流す所です。しずめた大きなかたまりはどこに行くのか、ぎ間に思いました。ちんさ池、ちんせん池、反応タンクを通つて20時間くらいかかることが分かつて、わたしはすぐく時間がかかるんだなと思つたけれど、お母さんやお姉ちゃんも汚れた水が20時間できれいになるなんて早いねと言つていました。他にもよごれた水のおいがあまりしなかつたので、そのことを話すと、近くにすんでいる人のことも考えているんだね、ということも話しました。

四つ目は、海や川を守るために、わたしたちにできることについてです。油は下水道に流してはいけません。下水道が詰まってしまうからです。さらに大量に流してしまうと、活性君が息ができなくなり、死んでしまうからです。

わたしは地球のためにむだな水を使わないようにしたり、トイレにトイレットペーパー以外の物を流さないようにしたりして、ちよつとでも地球にやさしくできるようにがんばりたいです。そのきつかけになつた宝満川浄化センターは、とても楽しかったです。